

7月26日 水曜日

エンプラ再生 25年1.5倍

エムダイヤ、立山に新工場

【富山】エムダイヤ（富山県滑川市、森弘吉社長）は、2025年にエンジニアリングプラスチックのリサイクル能力を21年比5割増となる年180トに高める。今秋の本格稼働を計画する立山第1工場（同立山町）に破砕機などを整備。本工場との2拠点体制を構築し、ライフサイクル全体で環境負荷低減の動きが広がる自動車業界などの取り組みを後押しする狙い。

エムダイヤはポリフエオレフィン系樹脂（PPS）樹脂や、ポリブチレンテレフタレート（PBT）樹脂といったエンジニアリングプラスチックのリサイクル事業を展開する。同事業は現在、本社工場の手がけるが、主力の分離・破砕機の生産が高水準で推移し

ており、リサイクル能力の拡大にまで手が回らない状態だった。そこで立山第1工場を建設し、リサイクル能力を高めることとした。新工場は北陸自動車道の立山インターチェンジ（IC）近くに立地し、敷地面積は1934平方メートル。3階建ての高さで内部は吹き

抜け構造とし、延べ床面積は約490平方メートル。異物の除去を含め、種類ごとに選別してリサイクル会社などに出荷する。

破砕機やクレーンなどを新規に整備する。新工場では、プラスチック廃材を破砕して減容化。異物の除去を含め、種類ごとに選別してリサイクル会社などに出荷する。

新工場はサービスやシステムを創出する「コトづくり」の拠点にも位置付ける。リサイクル材を使った一般消費者向け製品の開発なども検討。リサイクル



エンジニアリングプラスチックのリサイクル能力拡大に向け整備が進む立山第1工場

クルなどのサービスを主力の機器製造に並ぶ事業の柱に育てる。

同社は樹脂リサイクルに加え、電線メーカーとリサイクル会社の間でアルミニウム電線をアルミ原料に再資源化する業務を仲介する事業や、自社製リサイクル機械を修繕して再生する「アップサイクル」事業などを展開。立山第1工場の新設をテコに、今後もソリューションサービスを拡大する考え。